

再発見・牛久第三十五話

牛久市文化財保護審議委員

栗原 功

岡見(尾上)家と小坂城②

—小坂城は岡見(尾上)一族が築く—

岡見(尾上)一族の城

—子孫繁栄する—

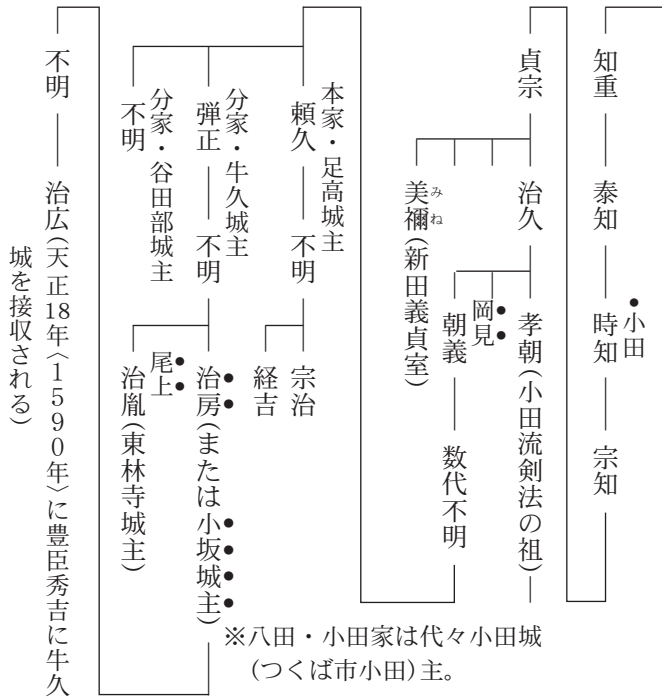
南北朝時代に筑波郡小田(現つくば市小田)の小田城主小田治久の二男朝義が、河内郡岡見(現牛久市岡見町)に移り住み、地名・岡見を苗字に用いて岡見家が興った。岡見家は子孫繁栄し、勢力を扶植した。岡見一族のうちで、尾上と称した系統もあった。その系統は、東林寺城(現新地町)関係の記録に出てくる。天正10年(1582年)頃の岡見一族をおもな城の城主として列記すると次のとおりである。足高城主宗家・岡見中務少輔宗治

城跡はつくばみらい市足高
若柴城主 岡見伝喜入道
城跡は龍ヶ崎市若柴
小池城主 岡見内記
城跡は阿見町小池
牛久城主 岡見治部大輔
城跡は牛久市城中町

谷田部城主 岡見主殿
城跡はつくば市谷田部
高崎城主 佐野内膳
城跡はつくば市高崎
久野城主 野口豊前守
城跡は牛久市久野町
河原代城主 木村和泉守
城跡は龍ヶ崎市川原代
寺田城主 寺田佐渡守
城跡は取手市寺田
若栗城主 栗林下総守義長
城跡はつくば市若栗
岩ヶ崎城主 唯越尾張
城跡はつくば市下岩崎
小荖城主 小島志摩
城跡はつくば市小荖
房内城主 矢口若狭
城跡はつくば市房内
岡見城主 岡見某
城跡は牛久市岡見町
東林寺城主 尾上某
城跡は牛久市新地町
小坂城主 岡見治房(一説では牛久城主)
城跡は牛久市小坂町

岡見(尾上)家本家・分家 —由来と略系図—

八田知家(一説では源頼朝の実弟(乳母兄弟とも)と伝えられ、鎌倉幕府創設への戦功などにより常陸守護職に任ぜられた。頼朝没後幕政が宿老13人による合議制が布かれると知家もその一員に)



【東林寺城本丸跡】

東林寺城本丸跡の土砂はことごとく昭和50年(1975年)より施工された稲荷川土地改良の客土および築堤用に搬出されたため、本丸跡の原形は消滅した。その際、同本丸跡は県文化課指導のもとで発掘調査が行われた(本職はその発掘調査の一員であった)。



足長州浜紋(小田家家紋)

岡見家家紋・丸に州浜(本家小田家よりの分家紋である)。小田家の分家である宍戸、筑波、柿岡の各家でもこれを用いた。

※足高城の宗治の子孫と牛久城の治広の子孫は、紀伊(和歌山)・徳川家(頼宣)と水戸・徳川家(頼房)に召し抱えられた。紀伊徳川家に召し抱えられたのは富重といい、越前の松平忠直に仕え大坂の陣に出陣して、その後頼宣に禄300石をもって召し抱えられた。水戸・徳川家に召し抱えられた者の子孫弥次衛門は郡奉行になり、徳川第4代將軍家綱治世下の延宝4年(1676年)に水戸領の村が分村独立したさいに郡奉行岡見家にちなんで『岡見新田村(現常陸太田市)』と名づけられている。